



## 教員確保特別部会の答申、文科省の予算要求 調整額13%、教科担任制拡大、働き方改革の推進

昨年6月から、教員確保とそのため  
の教員処遇見直しを検討してきた、中教審  
の教員確保特別部会の最終的な答申・審  
議まとめが、8/29に文部科学大臣に提  
出されました。

文部科学省はこれを踏まえて、来年度  
予算要求を公表して、調整額の増額、教  
科担任制拡大などを盛り込んでいます。

### 教員確保特別部会の答申(審議まとめ)ポイント

- ① 将来時間外の在校時間を月20時間程度に
- ② チーム学校で業務の協業を
- ③ 業務見直しのさらなる推進
- ④ 小3・4への教科担任制拡大
- ⑤ 教科担任制の推進、新任の担任・授業時数の軽減
- ⑥ 教職調整額を10%以上に増額
- ⑦ 担任手当の増額
- ⑧ 「新たな職」の創設(首席と教諭の間に)

### 特別部会委員「現場の切実な意見は『誤解に基づくもの』!？」

今回の文科省の要請に基づく、審議、答申は、危機的な教員不足、教員確保問題を受け、教員処遇の見直しが50年ぶりに具体化される極めて重要な審議でした。

長時間勤務の法的歯止めを盛り込む給特法の見直しや、欧米諸国並みの少人数学級、教員定数の抜本的見直しも、現場から期待されました。

しかし、特別部会の審議は結局、事前に自  
民党の特別部会が提言した内容の筋書き通  
りの内容になってしまったといえます。

答申案に対して現場の教員を中心に1万  
8000件を超えるかつてないパブコメが提  
出されたものの、委員からは「誤解に基づく  
ものが多かった」(西村美香、臨時委員)と切り捨てています。

文科省は答申に基づいて、調整手当増額、教科担任制拡大の予算要求を示していますが、今後財務省の厳しい見直し要求で押し返されることも予想されるため、この要求も額面通りには受け取ることはできません。

### 抜本的な教員定数増、少人数学級拡大こそ

#### 本来の「専門性」「裁量性」にふさわしい教育、人間らしい働き方を

現場の圧倒的な先生たちの声は、「もっとお金が欲しい」と言っているのではないことは明らかです。人間らしい働き方、教員として本来のやりがいや充実感を持てる教育の在り方を求めているのであり、それをゆがめている、多忙・過密な働き方、文科省、委員会からの通知や指示で、世界でも異常なほど拘束され、自主性や裁量性、教師としての専門性を制限されている働かせ方に歯止めをかけることにほかなりません。

そのためには、欧米並みの抜本的な教員定数増、少人数学級とともに、本来の「専門性」「裁量性」(審議まとめ)にふさわしい、仕事の在り方こそ実現すべきです。

### 文科省の来年度予算への要求

- ① 教職調整額を4%⇒13%以上に増額
- ② 担任手当の3000円増額、管理職基本給、手当の増額
- ③ 業務見直しのさらなる推進
- ④ 小3・4への教科担任制拡大
- ⑤ 「新たな職」・給料表の創設(首席と教諭の間に)

「ビリギャル」の先生・坪田信貴さん

## 「やる気を出させよう」がもう間違い

「資質能力を計画的、数値目標でどう伸ばすか」

が落とし穴に陥らないために？

ビリでギャルだった女子高生が、通った塾での指導をきっかけに偏差値を40も伸ばして慶応大に合格した話。有村架純の主演で2015年に映画化されて話題になりました。

この塾の先生のモデルになったのが坪田塾の塾長を務める坪田信貴さん。様々なメディアが、どうやって子供にやる気を出させて勉強して成績をあげられるかをこぞって聞いてきました。

しかし、坪田さんがきっぱりと言い切るのが、「そもそも『やる気スイッチ』を探そうとしていること自体がもう間違っている」ということです。

### 「相手との関係性」「理解者になり、『素直さ』をひきだす。これが出発点」

「やる気を出しても結局やらない。やる気なんてすぐ消えてしまう。」「頑張れない状態を『やる気の問題』ととらえている限り、結果を出させることはできない」と大人の側、指導的な立場のとらえ方の問題を明確に指摘しています。

その上で前向きになれるために、素直に働きかけを受け入れられる関係が大切として

「『素直な人』がいるのではなく、『素直になれる相手・なれない相手』がいるだけ」「『素直さ』とは、関係性が作り出す状態の一つ」「自分のことをまるで分ろうともしていないのに、一方的に要望を押し付けてくる人になっていないか。」「相手の理解者になり、『素直さ』を引き出す。これが出発点」と強調しています。

### ダメな点を長所にとらえなおし、「心の中でその子を抱きしめながら向き合う」

2014年放送のNHK「助けて！きわめびと」出演の際も、勉強にやる気のない娘に困る母親へのアドバイスでまず提案したのが、「お母さんが娘のダメだと思うところを10個あげてください。次にその一つ一つを「長所」としてとらえなおしてください」「心の中で娘さんを抱きしめながら、向き合ってください」とアドバイス。その後の取り組みの中で次第に親子の関係性が変化し、子どもに前向きな姿勢がみられるようになっていました。

### 「計画的に、数値目標をもって、資質能力を伸ばす」だけにとらわれては……

現在の学習指導要領、教育委員会の進める「学力向上」の取り組み、様々な研究授業、研究指定で取り組まれているのは、「エビデンス(数値的な根拠)をもとに、数値目標を明確にして、計画的に成果を上げていく」ことが根底にあります。

課題や問題と思われる事象、子どもたちの傾向を直接取り上げてアプローチして、効率的で最大限の成果を求める手法だけでは生身の子どもたちをとらえきれません。

効率と短期的な成果にとらわれずに、基礎的な学力習得とともに人間としての自立と、社会や人間どうしの関係性をどのように築いていけるかが、子供たちが将来出ていく格差拡大や不安定化する社会に向けて、人格の基礎をはぐくむうえで、何より必要なのではないのでしょうか。

立ち止まって考える

# 大正白陵(大阪市)、福泉(堺市)の公立2校の募集停止案 公立入試改革 2月下旬前倒し、第2希望校も！？

大阪府学校教育審議会8/26に、府立高校2校の再編整備案を発表しました。対象校となった大正白陵高校(大阪市、大正・泉尾高校が6年前に統合)と福泉高校(堺市)は2026年度入学生から募集を停止するとしています。府教委での審議を経て11月に決定する予定とされます。

大阪府では維新の会の橋下元知事の下で制定した2012年の府立学校条例で、3年連続定員割れの府立高校を自動的に統合対象校としていました。その結果10年で17校の公立高校が統合されてきました。

府教委はさらに、2027年までの5年間で9校を募集停止とする方針を打ち出しています。

## 所得制限ない私学授業料無償化で、府立高校の半数、70校が定員割れに、 来年以降「無償化」適用学年が拡大で、さらに加速も

2023年の府知事選挙で、私学無償化拡大を掲げて当選した吉村知事は、所得制限のない私学授業料無償化を、多くの私立高校の反対をおして実施。令和6年の高3から順次拡大されます。

その結果、令和6年度公立高校入試では、公立高校の半数、70校が定員割れとなる、「無償化ショック」と呼ばれる事態を引き起こしました。私学だけを受験する私学専願率が初めて30%を超えています。

来年は高2で、再来年の令和8年入学制からは高1からの授業料無償化の所得制限撤廃が実施されます。この事態はさらに拍車がかかり、公立高校がごく一部の学校しか生き残れない事態になりかねません。

## 維新の会・吉村知事の狙い 私学「無償化」拡大+際限ない公立統廃合 高校教育を、「安上がりの民間委託」のように！？

私学授業料無償化と引き換えに、私立高校は授業料上限が定められ、結果的に、大阪府の財政負担は公立高校よりも安上がりになる仕組みです。しかし、授業料以外の多額の保護者負担は残り、私学はこの増額に頼る傾向に拍車がかかります。

私学の授業料はすなわち、教員の人件費であり、タダでさえ経営の苦しい私学は大多数の教員を非正規で賄うことになり、経験豊富な教員を確保できず、非正規教員を5年で無期雇用になるのを嫌い、雇止めが広がっているとされます。

学校ごとに補助される私学助成は全国でも最低で、生徒確保が私学収入の命綱となるため、生徒集めに奔走し、私学の本来の特色や教育方針がないがしろにされているとされます。

## 私立と競うための公立受験前倒し、入試改革で中学校、受験生が混乱 撤回署名を広げ、公立高校つぶしからの転換を

府教委は、「無償化ショック」を受け、公立受験者を増やしていくとして、受験日程の前倒しをはじめとした方針を打ち出しています。

まだ素案の段階で、具体や詳細は今後になりますが、早ければ、現中1生の受験で適用されることもされています。

公立つぶし、私立高校・保護者への負担押し付け、公立・私立のつぶしあいの競争ではなく、だれもが通いやすい公立高校を保障し、私立の経営安定になる私学助成の拡大に転換すべきです。

「大阪の高校を守る会」が呼びかける高校編制撤回署名を広げ、公立高校つぶしを転換させましょう。

**府立高校入試改革案(7/25)**

- ① テスト・内申点以外で判定する特色ある入試枠の設定
- ② 入試日程の前倒し、(2月下旬ごろ?)
- ③ 複数校で第2希望まで希望できる仕組み

## 私立高校代表・草島葉子氏(興国高校校長)が府審議会で主張 府立高校の募集定員増が「半数の70校定員割れ」に 私立高校の方が多い定員割れ校、「無償化」拡大の現実

7月の大阪府学校教育審議会で、大阪私立中学校高等学校連合会 草島 葉子氏が私学授業料「無償化」拡大の影響について、実際のデータや私立校の実態も交えながら、マスクミで取り上げられる「私学無償化拡大報道の論調」とは異なる現実を訴えています。

令和6年度入試  
公立高校70/145校(48.3%)定員割れ  
私立高校54/95校(56.8%)定員割れ

## 志願者減、定員割れ拡大でも、公立入学者数は減少していない、 受験者数減なのに、公立募集定員増が影響

府立高校の半数、70校定員割れの実際のところは、受験者数が減少することが明らかな中で、それを上回る府立高校の募集定員を増やしたことが影響しています。

府教委はいわゆる「人気校」の定員を増し、受験生の集中を加速させ、結果的に全体の定員割れを拡大、さらには増やした26校の「人気校」のうち5校でも定員割れになっています。

令和6年度府内進学予定者数、 公立・私立高等学校募集人員		
	人数	前年比
府内進学予定者数	59,410	△ 300
公立高校募集人員	38,055	398
私立高校募集人員	26,147	96

※参考: 大阪府公立高等学校連合協議会(R5.11.8)

## 「定員割れ」私立高校の方が多数割合、 公私で生徒の取り合いで、入試制度、高校教育をゆがめてはならない

また、「70校定員割れ」でも公立高校への進学者数は横ばいで減少しておらず、一方私立高校の入学者は約730人の減少となっているのが実態です。結果的に、定員割れは、私立高校の方が公立高校よりも多い割合となり、無償化拡大でもより苦しくなっている経営実態につながっています。

大阪私立中学校高等学校連合会 草島 葉子氏も「決して生徒の取り合いをしてはならないということです。この数に踊らされてはいけません」として、生徒獲得競争で結果的に入試の在り方、高校教育のあり方がゆがめられることに警鐘を鳴らしています。

## 公立入試「改革」で、授業、中学生生活、不公平感への悪影響が懸念される

入試制度の改革案に対しても、入試日程の前倒しで、入試に間に合わせるため中学校の授業が困難になる。早い進路決定でその後の中学校生活へのモチベーションが維持できない、生活指導上の困難も増大しかねない。複数校の第2志望で、他府県でも不公平感などで否定的な問題が起きている。

公立入試前倒しで、私立がさらに前倒しすれば、中学校生活、授業への否定的な影響がさらに懸念される。としています。

草島氏は、大阪府の公立高校への府予算の少なさを指摘。公立高校にもお金をかけ、私立高校も安心して独自の教育に当たれるよう、公私で協力して検討が必要としています。

パーセンテージで言うと、私学の方がたくさん割れています。(経営の苦しい中で)、遥かに公立の先生より給与や一時金を下げた形で運営をダウンサイジングしています。…、例えば年間一時金2ヶ月という学校もある  
草島 葉子氏 府審議会発言より

令和4年度公立高校の教育経費  
一人あたり

全国順位	
45位	大阪: 約 111万円
40位	兵庫: 約 116万円
33位	東京: 約 129万円
	全国平均: 約 132万円

〔出所〕日本私立中学高等学校連合会